

「写真に刻まれた在りし日の記憶」

(9/20～11/30 中嶋政樹写真展「地図にない村」)

日吉ダム建設によって住み慣れた村を離れることになった日吉町天若・中地区の人々。ふとしたきっかけで村を訪れた中嶋政樹氏が、昭和62年の離村式まで7年間余り通り詰めて村の風景や人々の生き生きとした表情を写真に記録。日吉町郷土資料館秋季企画展として、今回初めて隣接する移築民家も含め79点の写真を展示しました。会期初日には、20数年前の懐かしい記憶に目を細める離村された方々の姿がありました。会期は11月末まで。



▲写真を眺める方々に郷愁が満ちていました

「大学と地域の連携で、こま犬再建」

(10/12 道相神社こま犬奉納)



▲関係者による除幕で、披露されるこま犬

美山町宮脇の道相神社で、数年前に盗難にあった本殿の神像とこま犬が氏子の悲願により再建されました。京都伝統工芸大学の学生らが須藤光昭教授指導の下、宮の森のヒノキを使ってこま犬を製作。神像は美山町在住の齋藤澄観氏によって彫刻され、非公開で安置されました。関係者が見守る中、こま犬は堂々たる風格で奉納。その後、7年ぶりの秋季大祭が盛大に行われ、境内を囲む俵振りや獅子舞など道相神楽(府登録無形民俗文化財)が奉納されました。

八木中央幼児学園で、夏休みの登園日に八木中学校吹奏楽部の演奏会が行われ、およそ130人の園児が管楽器などの“本物の音”を肌で感じました。

今年で3回目となった演奏会では、中学生の演奏に合わせて園児が歌ったり、イントロクイズをしたり、元気な園児の声が会場いっぱい響きました。曲目などは毎年2年生が企画。同部部長の池田由里奈さん(3年生)は「園児の知っている曲を選んで、夏休みに練習しました。毎年喜んでくれるので私たちも楽しみにしています」と園児に負けない笑顔で語っていました。



▲園児の心を引き付ける工夫いっぱいのステージ

「曲名なあんだ？工夫いっぱい演奏会」

(8/27 八木中学校吹奏楽部と八木中央幼児学園の交流)



▲空気入れて風船を割る「人間ポンプ」

4年に一度、オリンピックの年に行われる“美山のオリンピック”が、爽やかな秋晴れの下、長谷運動広場で開催されました。5地区(知井、平屋、宮島、鶴ヶ岡、大野)対抗で、年齢別に競技種目があり、出場選手に振興会長から委嘱状が交付される振興会もあります。老人クラブ会長や婦人会長などがたすきをつなぐ各種団体長リレーでは、消防団分団長が消防ホース巻きで威厳をかけて真剣勝負。13種目の白熱した対抗は、鶴ヶ岡地区が総合優勝と応援優勝を獲得、宮島地区が準優勝を収めました。

「地区対抗！美山のオリンピック」

(10/19 南丹市美山町体育大会)